

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study

和文タイトル: 妊娠中の母親と父親のアレルギープロフィール-子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: World Allergy Organization Journal

巻: 10 頁: 1 年: 2017 月: 8

筆頭著者名: 山本貴和子

所属UC名: メディカルサポートセンター

目的:

子どものアレルギー疾患の発症においては、親のアレルギーの既往といった遺伝的要因が強く関連しており、子どものアレルギー疾患を評価するためには、背景として両親のアレルギーの既往に関して評価することが重要である。

方法:

研究デザインは、出生コホート内横断的研究である。研究対象者は、エコチル調査への参加に同意している99,995名の母親と50,486名の父親とした。妊娠中に自記式の質問票調査と血液検査を施行した。評価項目は、両親のアレルギー疾患の有病率、両親の血清総IgE抗体価、母親のヤケヒョウヒダニ・動物・スギ・ガ・卵白特異的血清IgE抗体価とした。

結果:

母親の気管支喘息、アレルギー性鼻炎(花粉症)、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの有病率は、それぞれ10.9%、36%、15.7%、4.8%であった。父親の気管支喘息、アレルギー性鼻炎(花粉症)、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの有病率は、それぞれ10.8%、30.3%、11.2%、3.3%であった。いずれかの特異的IgE抗体に陽性を示した母親は、73.9%であった。最も陽性率の高い特異的IgE抗体価は、スギであり(55.6%)、次にヤケヒョウヒダニの陽性率が高かった(48%)。

考察:(研究の限界を含める)

本邦初の疫学的報告となる。妊婦世代のアレルギー疾患の有病率が高いことが示唆された。

結論:

日本全国における妊娠中の母親とその父親のアレルギー疾患とアレルギー感作について明らかにした。